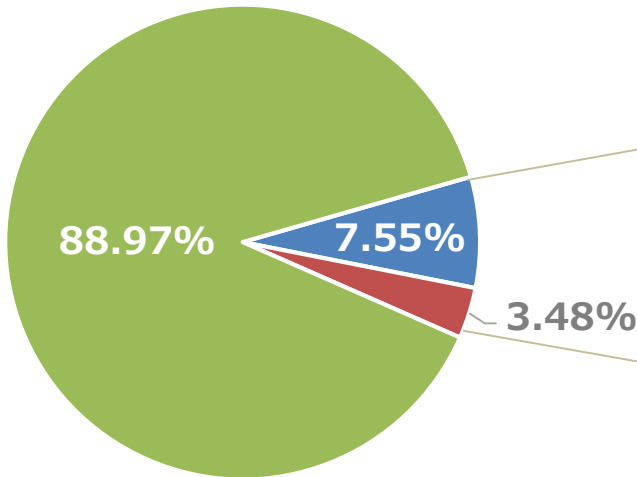
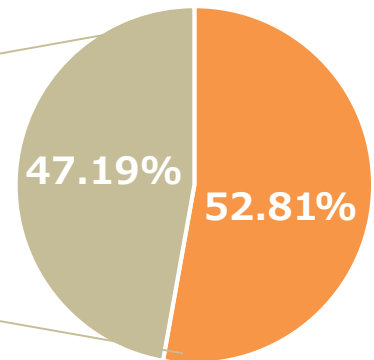


2020年度 勸奨結果



- 1回目受診者数 (280名)
- 2回目受診者数 (129名)
- 令和3年4月まで
歯科受診なし (3,300名)

2021年度 定着率



- 令和3年5月以降
歯科受診あり (216名)
- 令和3年5月以降
歯科受診なし (193名)

協会けんぽからの大切なお知らせです



1.このハガキをお送りした方

- 次の①・②いずれも満たしている方にお送りしています
- ① 令和2年度の健診における問診票で糖尿病の治療を受けている(服薬されている)ことが確認された方
 - ② 令和2年4月以降に保険診療により歯科医院を受診していない方



2.歯周病と糖尿病の怖い関係

成人の約7割が歯周病と言われています。歯周病になると、歯ぐきの炎症により腫れてできた歯周ポケットから、歯周病菌が毛細血管に侵入します。歯周病が進行すると、歯を支える骨が溶けていき、最悪の場合、歯がぐらつき抜けてしまいます。

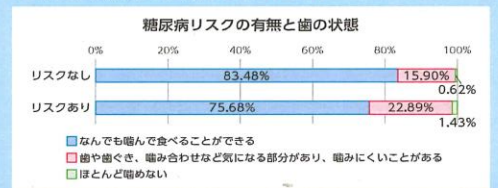
また、歯周病菌が毛細血管に侵入し全身に運ばれることで、身体の免疫力が低下し、さまざまな病気を引き起こすことが明らかになっています。特に糖尿病の人は歯周病になりやすく、歯周病の人は糖尿病を悪化させます。



3.歯科医院受診をオススメするワケ

「口から食事を摂取する」ことで、インスリンの分泌を促進するインクレチンと呼ばれる消化管ホルモンが分泌されます。このホルモンはインスリンの分泌のほかにも、食欲の抑制、胃の働きを緩やかにする効果があるともいわれており、これらの効能が糖尿病の重症化を予防してくれると考えられています。

全身の健康や生活の質を保つためにも、半年に一回は歯科医院を受診し、健康な歯を長持ちさせましょう。



健診受診の際、「食事を噛んで食べるときの状態」をお聞きした結果、糖尿病リスクのある方(治療中の方も含まれます)は、歯の状態が良くないことがわかりました。

※全国健康保険協会福井支部 令和2年度健診結果より集計

放っておいたら大変なことになるかも!?
まずは歯医者さんにご相談を!



◀歯周病患者のお口の中

画像引用 | 鶴井久一、沼部幸博著：新・歯周病をなおそう 砂田房 2008

本状と行き違いで歯科医院を受診されている場合は、ご容赦ください。